

令和4年度の 主な取組みについて

県民主役の県政運営

幸福度ランキング5回連続1位



(一財)日本総合研究所が公表した「全47都道府県幸福度ランキング2022年版」において、5回連続で総合1位となりました。今後も、福井の良さを未来に受け継ぎながら、100年に一度のチャンスを活かして、さらに魅力を高めるとともに、誰もが幸せを実感できる「一人ひとりの最大幸福・しあわせ先進モデル」の実現を目指します。

政策デザインの強化



デザイン思考により、県民目線で課題解決の道筋を描く政策デザインを強化しました。

県政における重要度の高いテーマについては、知事自身も参加し、デザイナーと直接意見交換する政策検討ミーティングを開催。目的の明確化やコンセプトの構築など政策立案の上流から、情報発信の仕方まで、幅広く議論し、政策の質の向上を図りました。

協働って仕掛けづくり



企業・団体等の「ふくいSDGsパートナー」と協力し、今年度初めて9～10月を独自のSDGs月間に設定。期間中に企業・団体等が実施する135件の県民向けイベントを一体的に広報しました。



ふくいチャレンジ人材塾

また、市町との協働を強化するため、県・市町職員の合同研修「ふくいチャレンジ人材塾」を初めて実施するとともに、北陸新幹線開業や中部縦貫自動車道開通に向け、市町長と意識の共有を図る政策ディスカッションを県内3か所で開催しました。



三県連携の関西アンテナショップイメージ

さらに、近隣県との連携を進め、初めて北陸三県知事による懇話会等を開催し、三県のマラソンの交流促進（ふくい桜マラソンと金沢マラソンは連携協定も締結）や、三県連携の関西アンテナショップの整備決定等につなげました。滋賀県とは、福井県が誘致する木材B材工場への原木供給等について合意しました。

少子化対策・移住定住の推進

日本一幸福な子育て県「ふく育県」の推進



今年度から子育て支援予算を倍増し、第2子の保育料無償化の範囲の拡充や男性トイレへのおむつ交換台の設置（ベビサポトイレ）、全天候型の遊び場の整備のほか、日本一充実した不妊治療費助成制度の創設などを行いました。

2月には、第1回目の「こども政策対話」が本県にて開催され、岸田首相から「福井県の子育ては目指すべきモデルケース」と評価されました。

子育て世帯の移住支援の強化



「ふく育県」テレビCM

県・市町の支援によりUIターンした「新ふくい人」の数が1,200人を超え、過去最高を更新した昨年度からさらに2割増加しました。

大都市圏の子育て世帯をターゲットに、「ふく育県」をPRする動画を制作しました。テレビCMなどで流した結果、約250万回再生されました。

移住支援金制度について、子どもを帯同して移住する世帯への加算制度を新設し、全国からの子育て世帯の移住を促進しました。

誰もがチャレンジできる社会に

若者のチャレンジを応援



「エキセントリック・カレッジ
ふくい」開校式

地域のリーダーとなる若者を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」を9月に開校しました。県内外のエキセントリックな講師を招き、様々な講義やフィールドワークを実施しました。

県の若手職員が企画立案する「チャレンジ政策提案」を行いました。14チームが知事へプレゼンし、過去最多の73名の職員が参加しました。

「フクション！」が本格化 (福祉に、アクションを)



フクション！フェス

福祉に新たなアクションを起こすプロジェクト「フクション！」で初めてフェスを開催しました。障がい者スポーツ体験や手話カフェ、アート展示などの企画を行い、様々な面から障がい者福祉を見て、知って、楽しみながら触れてもらう機会を創出。延べ2,000人超の県民が来場しました。

女性活躍の推進



女性の積極的な人材育成・登用を進める「女性活躍推進企業」が339社に拡大。また、企業で働く女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア”縁”カレッジ」を開校しました。

県庁では、男性職員の育休取得の促進、女性管理職の登用、各種委員会での女性委員選出などを率先して実践。2023年都道府県版ジェンダー・ギャップ指数の行政分野にて全国5位となりました。

外国人が住み・働きやすい環境を整備



ウクライナからの避難家族と面談

多文化共生の地域づくりを行う団体に向けた「多文化共生推進応援金」による支援に加え、地域住民とのコミュニケーションの橋渡しや災害時の自助・共助を担う「外国人コミュニティリーダー」の委嘱により、多文化共生を推進しました。

また、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う避難民の方々が県内で安心して生活できる環境を整えたほか、日本語学習や就労等に関する支援を行いました。

将来を担う人材の育成

県内定着に向け多様な学びの場の提供



【内観イメージ】

恐竜学部（仮称）学部棟イメージ

福井県立大学において、令和7年4月に開設予定の「恐竜学部（仮称）」について、県立恐竜博物館の隣接地に整備する学部棟の基本設計を行うなど、準備を進めました。

また、次世代の地域リーダーを養成する文系の新学部の設置に向け、有識者会議にて検討を行いました。

探究的な学びの推進



第2回全国高校生プレゼン甲子園

県立高校では魅力化を図るため、新学科・新コースを設置し特色的なカリキュラムを設けるとともに、生徒が主体となって探究的な活動を進めました。こうした探究活動の発表の場として、全国高校生プレゼン甲子園（34都道府県から441チームが応募）を開催しました。

百年に一度のまちづくり・にぎわいづくり

高速交通網の整備促進



新幹線福井駅の外観

北陸新幹線は、駅舎の工事や新九頭竜橋の開通など着実に進展しました。駅周辺の整備も進み、芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」や福井市観光交流センター、道の駅「越前たけふ」、敦賀駅前複合施設「TSURUGA POLT SQUARE otta」が完成しました。



大野IC - 勝原IC開通式

中部縦貫自動車道は、各ICの名称が正式決定するとともに、県内道路最長のトンネルの貫通や、大野IC - 勝原IC間の開通など、順調に整備が進みました。

敦賀港では、3月末に、国が鞆山南地区の岸壁220メートルを延伸する新規事業化を決定。県では、本事業との連携を図りながら、背後のふ頭用地を整備し、敦賀港の機能強化を進めていきます。また、アメリカの大型クルーズ客船「ウエステルダム」が敦賀に初寄港しました。コロナ禍の影響により止まっていた、海外クルーズ客船の受入が約3年ぶりに実現しました。



「ウエステルダム」敦賀初寄港

県内観光地の磨き上げ



一乗谷朝倉氏遺跡博物館

10月1日に一乗谷朝倉氏遺跡博物館を開館し、3月末までの来館者は9万人を超えました。また、恐竜博物館のリニューアル工事や、東尋坊再整備の支援などを進めました。



レイクセンター

三方五湖周辺では、レインボーライン山頂公園のレストランのオープンや、「BRIDAL LAND WAKASA」の開館のほか、日本初の電池推進遊覧船が発着するレイクセンターが完成しました。

魅力的な宿泊施設の増加に向け、旅の目的地となる民宿等への改修支援を行うとともに、リゾートホテルの整備・運営に向けて星野リゾートと協定を締結しました。



永平寺整備イメージ

また、世界的に高い評価を受けるシェフが料理を提供するオーベルジュの整備を働きかけ、三国湊エリアと永平寺町に進出が決定しました。

魅力あるまちづくり



県都グランドデザイン
将来像のイメージ

県都にぎわい創生協議会において、「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」を将来像とした「県都グランドデザイン」をとりまとめました。

並行在来線会社「株式会社ハピラインふくい」において、新駅整備や駅を中心としたまちづくりなどに着手しました。

WAKASABAY リフレッシュエリア



若狭湾サイクリングルート

敦賀駅から若狭高浜駅を結ぶ若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）のナショナルサイクルートの指定に向け、矢羽根等の整備、ガイド養成講座、SNSによる情報発信などを進めました。

また、2024嶺南誘客キャンペーンの誘客コンセプトを「青々吉日（あおあおきじつ）」とし、基本計画を策定しました。

新幹線開業に向けた交流拡大・魅力発信

新幹線開業カウントダウン



カウントダウンイベント

北陸新幹線福井・敦賀開業まで、いよいよ1年を切りました。

起点となる東京駅や丸の内周辺施設において、約1か月にわたりカウントダウンキャンペーンを実施しました。また、県内では、開業に向けたワクワク・ドキドキを実感いただくため、県民のみなさんのメッセージ動画のお披露目など、カウントダウンイベントを開催しました。

新アンテナショップのオープン



ふくい食の国291

“県内企業の販路とふくいファンの裾野”の拡大をコンセプトとする新アンテナショップ「ふくい食の国291」が、2月に銀座にオープンしました。

また、「ふくい南青山291」は、県内中小企業の新たなビジネス展開と食によるブランド発信の新たな拠点をコンセプトとし3月にリニューアルオープンしました。

ふくいの食のトップブランド化



いちほまれ新CM発表会

じゃらん宿泊旅行調査2022の「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」ランキングで全国1位になりました。

デビュー5周年を迎えたいちほまれば、新米販売開始に先がけ、9月に鈴木福さん、誉さん兄妹を起用した新CM発表会を開催しました。また、北陸新幹線で獲れたたの「ふくい甘えび」の輸送を始めたほか、首都圏等で活躍するトップシェフを講師に迎え人材を育成する「サスティナブル・カリナリー・カレッジ」を開講しました。

価値づくり産業の創出

新たな経済ビジョンの策定



新たな経済ビジョンの策定に向けたワーキンググループ

県内企業を取り巻く社会経済情勢の変化に対応し、アフターコロナ時代の産業政策の方向性を示すため、新たな経済ビジョンの策定を進めています。

県内企業の付加価値や生産性に加え、従来の経済戦略にはなかった県民のウェルビーイングの向上に着目するとともに、福井の未来を担う「人への投資」を戦略の柱に位置付けています。

高付加価値企業等の立地を推進



誘致企業からの報告会

企業立地セミナー等での知事トップセールスを契機として、海外企業と共同で日本酒の輸出拡大を図る企業の進出が実現しました。

昨年度に新設した補助制度を活用し、県外のIT企業がシステム開発の拠点となるオフィスを県内に新設しました。

また、約30年ぶりとなる県営産業団地の整備を進めており、候補地を福井、敦賀、小浜の3市に決定しました。

農林水産業の成長拡大



あわら市清滝の実証地の様子

スマート農業機械の実演会や全国農業担い手サミットの開催、GPS基地局の利用促進等により、スマート農業導入面積は、前年度の約1.2倍の5,060haまで拡大しました。

条件の良い森林において、所有者と事業者の間で10年程度の長期一括契約を締結し、効率的な主伐、再造林・保育を行うことにより収益の向上等を図る「ふくい型林業経営モデル」の構築を目指しています。9月からは伐採から運搬までの作業の効率化などの現地実証を行いました。

スポーツと文化で福井を盛り上げ

スポーツは福井の活力



北陸新幹線開業実感リレーウオーク

ふくい桜マラソン1年前プレ大会や、北陸新幹線開業実感リレーウオーク、福井丸岡RUCKと福井ユナイテッドFCによる「フットボールデー」など、多彩なスポーツイベントを開催しました。また、2023 WORLD BASEBALL CLASSICの日本の劇的な優勝に貢献した吉田選手、中村選手や、バドミントン世界選手権女子シングルスにて連覇を果たした山口選手など、本県ゆかりのスポーツ選手が躍動しました。

本県ゆかりの紫式部が大河ドラマに



PR用紫式部キャラクター

NHKに対し、本県ゆかりの人物を主人公とし、本県が舞台となるドラマの実現を要望しました。5月に、令和6年のNHK大河ドラマは、本県ゆかりの紫式部が主人公の「光る君へ」になることが発表されました。紫式部と本県の関係性や、ゆかりの地を歴史・旅行雑誌や新聞広告で発信し、観光誘客につなげていきます。

安全安心なふくいの実現

頻発する自然災害への対応



武田自民党災害対策特別委員会委員長への大雨災害に関する緊急要請

8月に発生した大雨災害では、嶺北と嶺南の交通が遮断された際の移動手段の確保等とともに、国への緊急要請を行い、激甚災害への指定などにつなげたほか、被災した道路等の速やかな復旧や災害防止対策を進めました。

3月には、地球温暖化対策の推進に向け、2030年度の温室効果ガス排出量を49%削減（2013年度比）すること等を目標に掲げた、新しい環境基本計画を策定しました。

新型コロナへの対応



インフルエンザとの同時流行に備え、医師会と協力し、1日最大5千人受診可能な医療体制を確保するなど、先手先手の対応を行いました。

また、感染症法上の5類移行後も安心して医療機関を受診できる体制について、医師会など関係機関と連携して準備を進めました。

DXによるポストコロナの社会変革

DXで暮らしを豊かに

デジタル(テレマティクス)技術を活用した
新たな交通安全対策



冬のDigi田甲子園
内閣総理大臣賞受賞

冬のDigi田甲子園にて、福井県と県警、あいおいニッセイ同和損保(株)が取り組んだ「デジタル技術を活用した新たな交通安全対策」が内閣総理大臣賞(全国1位)を受賞しました。

また、サービス連携基盤を活用し、子育て世帯限定のふく割を発行したほか、スマート農林水産業の推進や県制度融資手続の電子化など、県民や企業が利便を実感できるデジタル活用を推進しました。

新型コロナ・物価高騰からの経済再生

新型コロナからの経済再生に向けた消費喚起策として「ふく割」を発行し、県民の約半数の方に日常的に利用いただいています。また、全国を対象に「ふくいdeお得キャンペーン」を実施しました。

さらに、物価高騰の資金需要にも対応できる制度融資への改正や、電気・ガス価格高騰の影響を受ける事業者への給付制度の創設など、機動的に対応しました。



新時代スタートアップ

主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は

\\とんがろう、ふくい//

新時代スタートアップ★プロジェクト



ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどのとがった魅力でたくさんの人を呼び込もう！

みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事をみんなで増やそう！

みんながしあわせな、新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、持ち寄ろう！

みんなの「小さなアクション」を積み重ねて、ふくいを変えよう！



(1)ふくいエンタメ計画 ~ふくいの魅力をとがらせよう~

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなで作ります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し、賑わいを創出します。

■ 福井駅西口市街地再開発を支援

福井駅前電車通り北地区において、A街区では建築工事等に対する支援、B街区では解体工事等に対する支援を行いました。



■ 福井駅周辺のにぎわいづくりに向けた官民連携によるまちづくりを推進

県都にぎわい創生協議会において、「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」を将来像とした「県都グランドデザイン」を策定しました。



県都グランドデザイン 将来像のイメージ

■ 「福井城址活用検討懇話会」の提言に基づき、福井城址の活用を推進

福井城址の活用に向けた気運醸成を図るため、福井城セミナーを開催しました。また、石垣のライトアップ整備などを進めました。



■ 各新幹線駅の駅前広場や観光交流センター等の整備を促進

芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」や、福井市観光交流センター、道の駅「越前たけふ」が完成しました。また、敦賀駅の新幹線駅前広場などの整備に対して支援しました。



芦原温泉駅 西口賑わい施設「アフレア」

■ 金ヶ崎地区を中心に氣比神宮など周辺エリアを含む敦賀のまちづくりを推進

金ヶ崎周辺魅力づくり協議会において、金ヶ崎地区のオーベルジュを核とした複合施設整備や、氣比神宮の大鳥居に面する神楽通りの参道化等についての検討を進めました。



■ 観光型MaaSを推進

JR西日本が、11月に観光型MaaS「tabiwa」をリリースし、周遊パス等の販売を開始しました。



観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、新幹線開業に向け、誘客を拡大します。

■ 恐竜博物館のフルモデルチェンジに向け、整備を促進

世界に誇る恐竜化石の研究ならびに情報発信の拠点を目指し、恐竜研究を体験できる「化石研究体験室」の設置など恐竜博物館の機能強化を図るための整備を進めました。



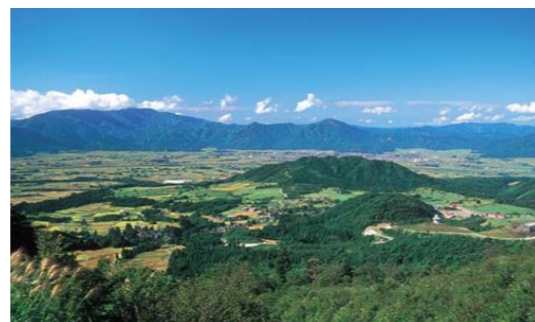
■ **東尋坊・三方五湖エリア**における観光拠点整備を支援

東尋坊の駐車場一元化や、三方五湖の新レイクセンター等の整備を支援しました。



■ **六呂師高原**の活性化策や誘客の柱となる事業を検討

六呂師高原活性化構想の実現に向け、民間事業者の誘致・事業者選定を進めました。



■ **若狭湾サイクリングルート**の走行環境・受入環境等を整備

ナショナルサイクルルートの指定に向け、案内看板等の整備、モニターツアーや地域でのワークショップの開催、SNSによる情報発信等を進めました。



■ 県内へ**リゾートホテル**を誘致

県内複数か所におけるリゾートホテル整備運営について、星野リゾートと協定を締結しました。



■ 福井を舞台とした**大河ドラマ**や**朝ドラ**を誘致

4月および5月にNHKに対し本県ゆかりの人物を主人公とし、本県が舞台となるドラマの実現を要望しました。5月に、令和6年の大河ドラマは、本県ゆかりの紫式部が主人公の「光る君へ」と発表されました。紫式部と本県の関係性や、ゆかりの地を歴史・旅行雑誌や新聞広告で発信しました。



PR用紫式部キャラクター

■ **日本一選ばれるお米「いちほまれ」** に向け販売店舗を拡大

4月からJAと一体となって卸業者へ販促活動を実施し、イオンなど量販店での販促キャンペーンに対する支援を行うことで、取扱店舗数を拡大しました。また、鈴木福さん、誉さん兄妹を起用したいちほまれの新CMを作成し、10月から11月にかけて県内ほか首都圏等で放映しました。



■ **「日本一のそばどころ」**ふくいを全国に発信

本県の特徴ある在来種そばを広く味わってもらうため、「おいしい福井県産そば使用店」の参加店舗をめぐる「スマホ de スタンプラリー」を8月から2カ月間ずつ3回実施しました。



■ ブランド魚「若狭ぐじ」「**越前がれい**」「**ふくい甘えび**」「若狭まはた」等、四季を通して発信

5月から北陸新幹線を使って「ふくい甘えび」を首都圏に7回輸送し、水揚げの翌日に飲食店に提供しました。さらに、11月からは「越前がれい極」を高級和食店に提供。12月には「若狭ぐじ極」を京料理展示大会に出展するなど、県産水産物の認知度と魅力の向上を図りました。



■ **新しい代表食材5品目**の一体的なプロモーションを強化

首都圏スーパーマーケットでの県産品フェアを拡大し、代表食材の販売を行ったほか、10～11月には首都圏飲食店での福井フェアに合わせて新幹線開業カウントダウンキャンペーンを実施しました。また、飲食店向けの食材セミナー、メディア向けの試食会、キッチンカーでのマルシェ出店等を行い、「若狭ぐじ」「さかほまれ地酒」等の新しい代表食材の認知度向上を図りました。



■ 都市圏のターゲット層に対して**“売り”となる必食の逸品**を創出

食のトップバイヤー岩城紀子氏提案の福井の新名物料理 6 品を決定し、お披露目会を開催しました。九頭竜まいたけを使った「九頭竜まいたけカレー」などの新名物料理は、参加店舗において 3 月から販売を開始しました。



■ **食文化魅力創造スクール**により人材を育成

学長に京都の老舗料亭「菊乃井」の村田吉弘氏を迎え、7 月に開講。3 月末までに 3 コース合わせて 14 回の実習および講義等を実施し、35 人が受講しました。



■ 一流シェフによる地域の食材を活かした**オーベルジュ**を誘致

県内でのオーベルジュ整備を働きかけた結果、坂井市および永平寺町で事業者がオーベルジュの整備に着手しました。



永平寺整備イメージ

■ 食ブランド力向上につながる**飲食店**等の開設を支援

国内外の有名店で修業したシェフが運営するフランス料理店など 5 件の県内出店に対し支援しました。また、道の駅越前たけふ内でのシェアキッチンの開設を支援しました。



■ JR小浜線における**観光列車**の乗り入れ・周遊ツアーを実施

丹後くろまつ号の小浜線乗り入れ運行を 10 月に実施しました。4 日間で 6 コース 12 便を運行するとともに、駅からの周遊ツアーを開催しました。



■ インバウンド対策 **Wi-Fi・キャッシュレス決済・免税店**を整備

道の駅「若狭美浜はまびより」における多言語看板の設置等を支援したほか、インバウンドアドバイザーの働きかけにより、伝統工芸やメガネ等 5 店舗が免税店として登録されました。



■ 敦賀以西への誘客促進のため**嶺南誘客キャンペーン**を開催

嶺南誘客キャンペーン実行委員会「若者チャレンジ会議」において地元の若手事業者等と意見交換を行い、新しい誘客コンセプトなどを盛り込んだ基本計画を作成しました。



○ **国体レガシー**を活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

■ **アスリートナイトゲームズ、日本スポーツマスターズ2023福井大会**などスポーツイベントの開催を支援

アスリートナイトゲームズなど大規模スポーツイベントの開催を支援したほか、日本スポーツマスターズ 2023 福井大会の開催に向け、市町や競技団体との協力体制を構築しました。



■ **ふくい桜マラソン開催**に向けた機運を醸成

ふくい桜マラソン 1 年前プレ大会の開催やルー
ーマラソン、目的地をめぐるロゲイニングなど、初心
者でも気軽に参加できるランニングイベントを毎月
開催。また、市町と連携し、スマートフォンアプリを
使ってランニングなどでポイントを集めるオンライン
イベントも開催しました。



■ トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUIRAYS)**」

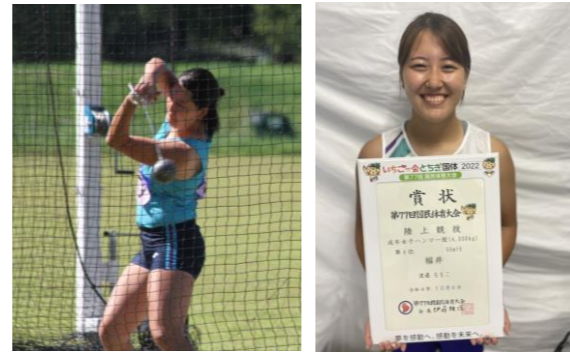
として徹底応援

福井丸岡RUCKと福井ユナイテッドFCの連携に
より、フットサルとサッカーの両方を 1 日で楽しめる
W観戦企画「フットボールデー」が開催され、多く
の県民が運動公園に観戦に訪れました。



■ 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUターンを推進

「スポジョブふくい」によるアスリートの就職支援を
実施し、22 人が令和 5 年春採用内定しました。
また、令和 6 年春就職に向けたインターンシ
ップ等の活動支援も開始しました。



■ 誰もが発表できる「**まちなかステージ**」の設置を支援

昨年度設置した福井駅周辺に加え、5 月には
敦賀市の国道 8 号歩行空間、12 月には大野市
の五番商店街において、新たなまちなかステージ
を設置しました。



■ アーティストが地域資源を活かして制作活動を行う**アートプロジェクト**を応援

5 月から地域資源を活かして新たに取り組むア
ートプロジェクト 2 件を含む芸術文化活動団体の
活動費助成と芸術文化アドバイザーによる相談
支援、研修会を実施しました。



■ **一乗谷朝倉氏遺跡博物館**を開館

10 月 1 日に博物館を開館しました。同時に開
館記念特別展「発掘調査の歩み」をスタートし、
カフェ・ミュージアムショップもオープンしました。
開館から 3 月末までの間に、9 万人を超える
お客様をお迎えしています。



■ **一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客**策を展開

博物館開館に合わせ、10 月 1 日からARアプリ
「戦国時空伝」をリリースするとともに、JR越美北
線「戦国列車」や、案内ガイド付き遺跡周遊バスの
運行を開始しました。



○まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふ
れる「おもしろい」まちづくりを進めます。

■ 若手アーティストによる「**まちかどコンサート**」を開催

10 月から 3 月にかけて、県内全市町の身近な
場所で、福井ゆかりのアーティストによる「まちかど
コンサート」を開催しました。



伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

■ 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムを造成

丹南広域観光協議会における、越前和紙や越前打刃物などの伝統工芸体験プログラム等の造成を支援しました。



■ 県内外のデザイナー等とコラボした**伝統工芸ブランド「F-TRAD」**による商品を開発

新進気鋭のデザイナーと伝統工芸職人がコラボレーションして越前和紙のピクニックシート、若狭めのうのイヤリングなど現代生活に調和する7品を新たに開発し、1月から販売を開始しました。



(2)次世代チャレンジ宣言 ～チャレンジで未来をつくろう～

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

■ 知事のトップセールスによる先端企業の誘致を促進

企業立地セミナー等での知事トップセールスを契機として、オンラインでのセミナーや面談なども活用して誘致活動を進め、海外企業との共同出資により日本酒の輸出拡大を図る企業、PCR検査試薬を製造する企業等の県内進出を実現しました。



■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

令和3年度に創設した補助制度を活用し、社員ファーストの職場環境が整った物流施設や、システム開発の拠点となるIT企業のオフィスを誘致しました。



「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで有望ベンチャーを育成

県内経営者に対する意識啓発セミナーや若手起業家が集うベンチャー経営塾を開催しました。また、第8回福井ベンチャーピッチを開催し、有望ベンチャー企業等5社が、支援機関やパートナー候補の企業など約270名に対しプレゼンを行いました。



■ 独創的なアイデアを持つ学生・若者スタートアップを創出

30代以下の若者を対象として、起業マインドの醸成、ビジネスアイデアのブラッシュアップを図るとともに、同じ志を持つ仲間とのコミュニティが形成できるよう、ワークショップの実施やメンターによる個別指導を行いました。

アプリの開発・運営事業などを開始する学生3者に対し、起業にかかる初期経費に関する資金支援を実施しました。



■ 事業承継に向けた企業価値向上と県外人材等による第三者承継を支援

県外人材等による第三者承継を進めるために、5月からサーチファンドを活用した事業承継の支援を開始し、サーチファンド運営事業者に対して、後継者不在の県内企業情報を提供しました。また、事業承継に向けて企業価値の向上に取り組む28者に対して補助金を支給し、円滑な事業承継を支援しました。



■ 働きやすい職場づくりに取り組む「社員ファースト企業」を拡大

すべての働く人が安心して働き活躍できる職場を実現するため、県内企業による働きやすい職場環境づくりへの支援や取組事例の積極的な発信を実施。「社員ファースト」宣言企業は209社に拡大しました。

また、特に優れた取組を実践している7社を「社員ファーストアワード」として表彰しました。



成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

■ 企業の人工衛星運用技術の習得を支援し、人工衛星製造のビジネス化を推進

県内企業の衛星運用技術習得を支援するため、新たな衛星の開発を開始。令和6年度の打上げに向け、衛星エンジニアリングモデル(試作機)の開発に着手しました。



■ エネルギー関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発を支援し、企業の稼ぐ力を向上

環境負荷に配慮した水を使わない染色加工機の開発など、6件の省エネルギー・次世代エネルギー関連の共同研究を支援。県内企業が研究開発や販路拡大に向けたPRに取り組みました。



水を使わずに染色・加工した生地

■ 嶺南Eコースト計画に基づくスマートエネルギーエリアを形成

嶺南市町が進めるスマートタウンのモデル地区整備に向けた取組みに対して、嶺南スマートエリア推進補助金を活用し、支援しました。

また、嶺南市町および電力事業者と連携し、EVを活用したVPP(仮想発電所)※の実証実験を行いました。

※地域に分散する自治体や企業等の電力設備(EV、蓄電池等)を制御し、発電所と同様の需給調整機能を持たせる仕組み



■ 「立地地域の将来像に関する共創会議」に参画し、地域の将来像と、その

実現に向けた基本方針等を、国や立地市町、電力事業者とともに策定

共創会議において議論を進めてきた「将来像の実現に向けた基本方針と取組」が6月に取りまとめられ、高速炉研究開発の中核的拠点化に向けた調査の実施や原子力リサイクルビジネスの国のリーディングプロジェクト化、水素の製造・発電実証プラントの整備、大阪・関西万博への水素供給などの取組みが示されました。



■ ICTを活用したスマート農業を推進

GPS田植え機など農作業の省力化・軽労化等を紹介するスマート農業機械の実演会や全国農業担い手サミットin福井大会を開催しました。

また、31のモデルとなる農業経営体を育成し、スマート農業を導入する水田が5,060haに拡大しました。



■ 園芸タウンの整備により園芸産出額を拡大

県内各地区で、10の協議会が設立され、園芸タウンの協議が進められています。

令和4年度は奥越地区の園芸タウンにおいて、サトイモの植付け機や株割り機等を整備しました。また、坂井市の三里浜砂丘地ではメロン等のリースハウスを19棟整備しました。



■ 農遊コンシェルジュの育成、農遊スタンプラリーで農村回遊を促進

4月から農遊コンシェルジュ育成研修を実施し、64名を認定しました。

また、県内の直売所や観光地111か所を繋ぎ、旅行者が農村を巡って楽しむ農遊スタンプラリーを開催。2,600名以上の方が参加しました。



■ 「ふくい型林業経営モデル」の構築による主伐・再造林を推進

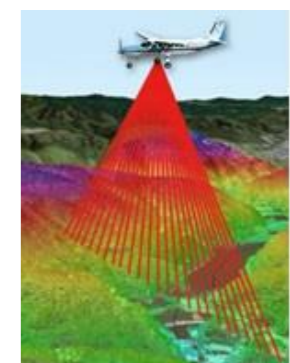
条件の良い森林において、所有者と事業者が長期一括契約を締結し、効率的な主伐、再造林・保育を行うことにより収益の向上等を図る「ふくい型林業経営モデル」の構築を目指して、現地実証を実施しました。



福井市西天田の実証地の様子

■ 航空レーザ計測による高精度の森林情報を共有・活用し、林業DXを推進

南越前町、おおい町において森林航空レーザ計測を進め、年度末までに県内森林面積の46%の計測を終えました。並行して、各自治体や林業事業者間で森林情報を共有する森林クラウドシステムを整備しました。



■ 「ふくいウッドチャレンジ推進ネットワーク」を創設し、
民間施設での県産材利用を拡大

企業における県産材利用を推進するため、関係団体等が連携し、県産材利用に関する情報の共有や企業からの相談対応等を行う「ふくいウッドチャレンジ推進ネットワーク」を10月に創設しました。



■ 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を開始、**養殖生産規模の拡大**を支援

小浜市堅海に新たに整備した水産学術産業拠点「かつみ水産ベース」において、4月からサーモンやサバの養殖の効率化、安定供給等に向けた共同研究を開始しました。



■ **農家レストラン**や**観光農園**を整備し、農山漁村の交流人口を拡大

令和5年12月のオープンに向け、南越前町の道の駅「南えちぜん山海里」横に 観光客を農山漁村に呼び込み、回遊してもらうための観光農園の整備を支援しました。



南越前町観光農園イメージ

○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ DXラボと支援機関が連携し、**企業のDX推進を伴走支援**

ふくいDXオープンラボの相談員が6月から県内の商工会議所や商工会で出張相談会を開催し、63件の相談に対応しました。また、DXに取り組む際の参考として、DXの手引きと事例集を作成しました。



■ 学生、転職者等を対象にITスクールを開講し、企業の**IT人材を育成・確保**

県内で活躍するIT人材を育成するため、10月から「ふくいITエンジニア養成スクール」を開講。49名が受講し、29名が修了しました。
また、IT人材採用に関心のある37社がサポーター企業となり、企業見学会やインターンシップ等を実施して、スクール受講者との交流を図りました。



■ IoT・AI・5G等の先端技術の導入による企業の**業務効率化、高付加価値化**を支援

県内企業の競争力強化のため、IoTなどのデジタル技術や5G通信環境等を活用した新サービスの提供や業務効率化を行う28件の取組みを採択しました。



■ **県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用**により

県内企業の成長を支援

県内企業のDXを推進するため、県外IT人材の新規正社員雇用や副業・兼業人材を活用した業務改善、新事業創出など10件の取組みを採択しました。

デジタル技術による業務改善等に向けて
新たな人材確保を行う事業者さまに

正社員雇用：最大250万円
副業・兼業人材活用：最大50万円
を補助！

福井県庁からご案内
『社内変革に向けた即戦力人材雇用促進補助金』

産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「恐竜学部(仮称)」を新設

令和7年4月の学部開設に向け、勝山市に設置予定の学部棟の基本設計を行うとともに、建設予定地の地質調査を実施しました。



■ 大学と産業界等との連携により社会人のリスキリング教育を展開

地元企業のニーズに応じて、DX実践講座やマネジメント講座、カーボンニュートラル講座を開催しました。



■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「ふくい創生人材」を輩出

県内大学の学生・教員が企業・市町・県と協働して地域の課題解決に取り組むPBL(プロジェクト型学習)を合計101件実施しました。



■ 園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成

園芸カレッジには30名、林業カレッジには13名、水産カレッジには12名が新たに入校し、技術や経営に関する研修に取り組みました。また、修了生が県内で就農・就業しました。



日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくりま

■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

県全域の独身者を対象に、ツアー型の婚活イベントを開催しました。

また、ふくい婚活サポートセンターのマッチングシステム登録者向けの相談会やセミナーを開催するとともに、民間相談所登録者との引き合わせを可能にした専用サイトを構築しました。



■ 多子世帯への支援を第2子に拡大「子だくさんふくいプロジェクト」を実施

令和4年9月から第2子の保育料無償化の所得制限を年収640万円未満の世帯まで拡大し、多子世帯への支援を強化しました。



■ 第2子以降の3歳未満児童の「在宅育児」を支援

全ての市町と協働し、年収360万円未満世帯を対象に在宅育児応援手当を支給しました。



■ 男性育休や短時間勤務、不妊治療休暇など子育てしやすい職場環境を整備

企業に対し、男性の育児休業等を推進する奨励金を支給したほか、企業のワークライフバランスの推進を図るため、経営者向け講習会の開催やテレビCMによる機運醸成等を行いました。



■ 在宅で子育てしやすい**テレワーク環境**づくりを推進

育児や介護などの事由で通勤が困難な方の雇用や就業継続を促進するため、テレワーク導入企業に対する支援を行うとともに、新たな導入や定着を促進するため、国と連携してセミナーへの参加を働きかけしました。



■ 父親が子どもとお出かけしやすい環境を整える「**ベビサポトイレ**」の整備を支援

「ふく育」応援団参加店舗や県・市町の公共施設など 24 箇所の男性トイレにおいて、オムツ交換台やベビーチェア等の設置を進めました。



■ 「**ふく育**」応援団によるすべての子育て家庭と妊婦を応援、子育て情報を一元化

1,800 以上の県内店舗が「ふく育応援団」に登録。11 月下旬からは応援団店舗で使用できる「ふく育割」を発行し、約 35,000 世帯で子育てに活用されました。



■ 子育てのイメージをプラスに変える**子育てバックアップキャンペーン**を実施

子育てに対するポジティブなイメージを醸成するため、県内向けテレビ CM を放送しました。また、カリスマ保育士を招き「ふく育県」を語るトークイベントを開催したほか、県の子育て支援を紹介する YouTube 動画を制作・公開しました。



■ 地域における**全天候型の遊び場**の整備を支援

心身ともに健やかな子どもの育ちを支援するため、天候に関わらず子どもたちが安心して遊ぶことのできる遊び場の充実を図っています。現在、各市町が全天候型の遊び場整備に向けた検討を進めています。



■ **フォスタリング機関**による里親の確保と質の高い里親養育を実現

里親のリクルートや、里親を対象とした研修の実施に加え、里親家庭への訪問や休日・夜間の相談対応、里親等による相互交流などを実施しました。



(3)しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになろう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る
「県民総参加」の社会をつくれます。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

■ 地域のリーダーとなる若者を育成する**教育プログラムコース**を実施

地域のリーダーとなる若者を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」を9月に開校しました。90名の申し込みがあり、その中から25名の受講生を採用。3月までの半年間、県内外のエキセントリックな講師を招き、様々な講義やフィールドワークを実施しました。



■ 若者による若者応援組織「**ふくい若者フォーラム**」の活動を支援

一歩踏み出したい、アクションを起こしたい若者が一同に集まり、地域で活躍するプレイヤーから直接アドバイスを受ける「ふくい若者ミライ会議」を開催しました。57名の若者が参加し、自分が実現したいことへの道筋を、ワークショップを通して具体化しました。



■ **若者・女性・NPO**のチャレンジプランコンテストを開催し、徹底応援

女性や若者、NPOが実施する福井の活性化につながる新たな活動プランを応援する「県民ワクワクチャレンジプランコンテスト2022」を7月に開催しました。女性部門6件、若者部門4件、NPO部門5件のプランを採択しました。



■ ふるさと納税活用の**クラウドファンディング**により県民活動を応援

ふるさと納税を活用し、20事業のクラウドファンディングを支援しました。17事業が目標金額を達成し、福井の食材を使った新商品の開発や、富裕層向けのモニターツアーなどが実現しました。



○課題解決へ**県民アクション**

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を広げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

■ 将来構想実現に向けた県民主権の「**FUKUI未来トーク**」を開催

長期ビジョンの普及に向け、学校や企業を対象としたワークショップや、県民が自らのアクションを考え、発信する「FUKUI未来トーク」を実施しました。また、県立図書館において長期ビジョンを紹介するパネル展示やクイズを初めて実施。「私のアクション」をフリップに書いてもらう「FUKUI未来トーク」コーナーを設け、参加した方のアクションをSNSにおいて紹介しました。



■ 「**SDGsパートナー**」の登録拡大、連携により次世代を育成

「ふくいSDGsパートナー」の取組みをPRするとともに、県民のSDGs活動実践を促進するため、9～10月を独自のSDGs月間に設定。パートナーが実施する135件の県民向けSDGs関連イベント等を一体的に広報しました。



■ 県内デザイナーとの協働による「**政策デザイン**」を強化

県内デザイナー等との政策検討ワークショップを25回、デザイナーとともに潜在的ターゲットとなる現場へ出向くヒアリング調査を5回実施し、電車通勤乗換え促進など新たな政策が10件生まれました。また、政策立案の上流部分から県民目線で質の高い政策を立案するため、知事とデザイナーによる政策検討ミーティングを実施しました。



■ 県と**市町協働**による課題解決策の検討やシステム共同化を推進

全市町にマイナポイント支援員を派遣するなど、県と市町が協働しマイナンバーカード取得促進に取り組んだ結果、普及率は全国平均を上回る86%に達しました。



■ 「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」に基づく男女共生社会の実現に向けた取組みを促進

お茶の水女子大学と協働による女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」を開校したほか、女性活躍推進コンシェルジュによる企業訪問コンサルティングを実施しました。



■ 県民向け**サービス連携基盤**を活用し、地域課題を解決

デジタルサービスをつなぎ、地域課題解決を図る新たなサービスを創出するデータ連携基盤を整備しました。

第一弾として、ふく育パスポートとふく割を連携させ、子育て世帯を対象としたクーポンをプッシュ型で発行しました。



○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど**学生の長期滞在型キャンプ**の実施を支援

県内3地区(鯖江市、坂井市、小浜市)において、県外学生が、夏季の長期滞在キャンプや週末等を利用して継続的に来県し、地域を題材としたアート作品や、地元企業の紹介動画の制作などに取組みました。



■ 「**多文化共生推進応援金**」により、外国人支援など多文化共生の地域づくりを行う

団体の活動を支援

今年度新たに採択された3団体が活動報告を行い、県内外の留学生に福井の魅力を知らせてもらう就活ツアーや、未来の多文化共生リーダーを育てるワールドキャンプなど特色ある取組みを発表しました。



■ 都市人材を呼び込む「**地方兼業**」の取組みを拡大

都市部で働く専門家(データ分析、デジタル人材育成、システム開発等)を兼業委嘱し、政策立案や事業執行のアドバイスや職員向けセミナーを通じ、高度な知見を県施策へ還元しました。



■ 外国人が**住み・働きやすい環境**を整備し、活躍を促進

台風や大雪の際の外国人県民の安心につなげるため、県が委嘱している外国人コミュニティリーダーが自ら災害情報を発信しました。

また、10月に開催した福井国際フェスティバルでは、12か国・地域のリーダーが文化紹介などを行いました。



■ 地域との交流や体験活動を促進する「**ワーケーション**」の受入を推進

7市町のワーケーションパッケージの企画受入を支援したほか、都市部企業や親子、インフルエンサーによる県内でのワーケーション体験を進めました。



■ しごと・住まい・定着支援を組み合わせた「**移住応援パック**」を発信

7月から都市部大手求人情報サイトに福井県特設ページを設け、福井の生活環境や若者・子育て世帯向け求人を掲載(若者向け43件、子育て世帯向け20件)し、マッチングを行いました。



■ **移住サポーター**による情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

移住サポーターをすべての市町に1人以上(19名5団体)委嘱。移住希望者からの相談対応や現地案内、移住者交流会の開催など、移住前から後まできめ細やかに移住者を支援していただきました。



都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ 子育て世代への「**移住支援金**」を加算

東京圏からの子育て世帯の移住に対し、子ども一人当たり30万円を加算、東京圏以外からの子育て世帯の移住に対しては、最大30万円を加算し、3月末までに49件支援しました。



■ 三大都市圏における**就職支援協定大学**を拡大

新たに7校と協定を締結し、協定校は54校となりました。福井県出身学生を対象に就職支援説明会の開催や支援メニュー等の情報を提供しました。



■ **若者や子育て世代**やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

県内企業の仕事や暮らし、子育て環境を体験するツアーを企画し、若者向けと子育て世帯向けに各2回ずつツアーを実施。関東や関西を中心に29人が参加しました。

